

令和4年度 東京都立石神井高等学校経営報告

本校は、「いかなる社会情勢にあっても、旧制中学から続く長い歴史を土台に文武二道の両立を実践する伝統校として、次代を担う生徒の育成」を目標とし、

「AIM HIGH：自ら学習に励み、生得の才能を伸ばし、高い矜持をもつ」

「WORK TOGETHER：自他を尊重し、他者と協働して高め合い、新たな価値を創造する」

「CHALLENGE GLOBALLY：グローバルな社会人基礎力を育み、世界貢献への意欲を高める」

生徒の育成を目指してきた。「チーム石神井で文武二道の両立を！」のスローガンのもと、学力の確実な定着による進学実績向上、部活動の一層の充実、そしてその基盤となる基本的生活習慣や規範意識の醸成を目指してきた。その学力と人間力をどこまで高めることができたのか、その成果と課題をここに報告する。

1. 令和4年度における教育活動への取組と自己評価

(1) 学習指導

① 授業規律の遵守と、主体的・対話的で深い学びへの実践

どの教員、どの授業においても授業規律は継続して遵守できている。すべての教員が、授業時間をフルに活用するため、チャイム前に教室で授業準備と生徒の着席指導に取り組み、チャイムと同時に授業を開始する等「50分の授業を大切に」している。また、授業観察の観点に、本時の目標の明示と主体的・対話的で深い学びの実践を導入し、多くの教員が十分な感染症対策を実施した上で、できる限りのペアワークなど協働的な活動を導入しており、その成果が出ている。また、教育のデジタル化推進に向け、一人1台端末活用に向けた取り組みを推進している。主体的・対話的で深い学びとなるよう探究的な学習への取り組みを始めたところである。

② 基礎的・基本的な学力の定着と、さらに応用・発展的な学力の向上を目指した指導

ICT機器を活用した授業は定着し、生徒の関心・意欲を高めている。様々な学習コンテンツを活用しながらオンライン授業を全校体制で実践したことは今後につながる成果である。

夏季休業中の講習期間には、全校体制で部活動を制限し学習機会の保証を行っている。その一方で、受講生徒数が減少していることについては、開講講座数を含め、生徒の実態に応じたものに改善していく必要がある。

平日の補習、個別指導も継続して実施した。一方、自主学習時間は、例年の課題となっている。1時間未満の生徒は前年度から改善しているものの、例年目標としている学年数プラス1時間以上の学習時間という指標から見ると、いまだに達成できていない。次年度も、引き続きスキマ時間の活用を含め、ソフト面でもハード面でも、自学自習環境の構築が喫緊の課題である。

(2) 進路指導

① 確かな進路選択に向け、早い時期からの生徒の意識向上に努める

生徒の進学意識の向上とともに、保護者の意識の向上が必須であることを踏まえ、進路指導部主催の保護者対象進路講演会を実施している。特に1・2年生についてはこれからの進路指導を行う上で、大学入試情報等を保護者にも提供することにより、早い段階から進学に向けた意識向上に役立った。保護者向けマネー講座を充実させ、一般受験を志望する生徒・保護者にとって、受験にかかる費用についても啓蒙を図った。今後も継続して拡大実施する。一方、生徒の進路指導については「総合的な探究の時間」を活用したキャリア教育を通し、3年間を見据え、各学年段階に応じて計画的に実施し、大学と連携した進路ガイダンスや授業体験など、生徒の進路に対する意識を向上させた。大学分野・目的別ガイダンスでも進路意識を高められ、引き続き適切な進路プログラムを提供する。また「進路ニュース」として学年に応じた適切な進路情報を提供することにより、生徒の進路意識向上を図ることができた。模試分析会に各教科の分析を導入し、さらなる授業改善を行い、生徒の進路実現に向けて取り組んでいる。有識者を招いての生徒の学力推移の分析会、進学指導研究校としての取り組み、他校の優良実践の導入等少しずつ教員の意識も変化してきている。

② ねばり強く取り組む意欲を育て、生徒の希望する進路実現に努める

模擬試験の結果分析などを進路指導部・学年の連携で行い、分析結果を生徒へフィードバックし、個々の進路指導に役立たせた。また、共通テスト出願者数は堅調である。国公立大学合格者数が14名、早慶上理決定7名、MARCH決定48名。従来の延べ人数ではなく、決定者の実績が向上している。コロナ禍の中にあつて、受験へのスタートが遅くなった点は反省としてあるが、生徒の志望も向上し堅調に推移している。

(3) 生活指導

① 生徒の基本的な生活習慣や規範意識の育成と利他の精神の醸成

生徒の生活指導については、外部、地域から高く評価していただき、生活指導をきちんと行う学校選びをしている中学生が本校を希望し、その希望者数が安定している。社会問題となっている歩きスマホの撤廃と、授業規律の向上、遅刻数の減少など、生活指導の充実が学力の向上につながっている。それと同時に、校

内外の美化や公共物を大切にしている意識も育ってきている。

運動部や文化部がそれぞれに地域行事等への参加も引き続き実施しており、ボランティアマインドの醸成にもつながっている。特に挨拶は外部からの評価が高く、引き続き挨拶の励行を実施したい。

② 教職員あげて一層の生徒理解に努めるとともに、好ましい人間関係の構築を支援

生活指導部が教育相談を所轄し、特別支援教育コーディネーターを生活指導部から選任し、フットワークを軽くすることで生活指導と教育相談とが緊密に関わることができている。スクールカウンセラーによる新入生の全員面接を含め、特別支援校内委員会を研修会含め年間5回開催し、教員との相互連携や生徒情報の共有により生徒の心理的な課題を早期に把握し、課題を抱える生徒への対応を適切・迅速に行うことができている。また、特別支援教育等の研修への派遣を継続的に行うことで、教育相談に関する教員の意識を向上させることができている。学校サポート委員会も、地域関係者の協力を得て、有効に機能している。

次年度、通級指導も計画しており、ますます一層の生徒理解を図りたい。

(4) 特別活動

○ 学校行事、生徒会活動、部活動等の一層充実・発展を図る

体育祭については、競技種目は感染対策により制限したものの、全学年揃っての開催となった。体育祭実行委員会生徒の主体的な取り組みにより、石神井高校の伝統の継承を行うとともに、安心・安全の確保と行事の充実を実現できた。引き続き、良き伝統を継承し、質の高い行事としていく。本年度は3学年の保護者を観客として迎え、非常に好評であった。

文化祭も、全学年で開催できた。文化祭実行委員会の生徒の主体的な取り組み、教職員の感染防止対策徹底と生徒の意識向上により学校行事が開催できたことについて、さまざまな面において、教職員と生徒の意識向上がみられた。さらに、在校生の家族を観客として迎え入れたことにより、生徒だけでなく在校生の保護者にも本校の取組を紹介できたことは、大きな成果であった。この成果をさらに次年度にも生かすとともに、従来課題となっている、限られた時間での準備と実施をいよいよ本格的に改善する年度となる。

美化委員会、保健委員会では、コロナ禍の状況で、継続してゴミの分別、手指消毒の徹底に合わせ、校内美化、トイレの衛生点検など、生徒主体に計画的に進められた。校内美化については、スローガンを決め「グッドマナー石神井」を継続して、来校者から校舎が常にきれいであると高評価である。

図書委員会では、読書活動の推進や図書室前にソファとブックスタンドを設置し、本に親しみやすい場所を提供する“ブックカフェ”を継続実施した。

部活動においても、コロナを乗り越えるという意識で活動を実施した。感染傾向を注視しながら、その時々状況等を考慮し、全校体制で感染症対策と部活動の両立を図った。新型コロナウイルスの感染症法上の扱いが変更される中、文部科学省のガイドラインに沿った活動を実践していく。

(5) 健康づくり・体力づくり

○ 学校生活を支える生徒の心身の健康づくりに取り組む

外部講師を招請して薬物乱用防止・性感染症問題・癌教育をテーマにした講演会をそれぞれ開催し、生徒の健全育成を図った。また、スクールカウンセラーによる教育相談に係る研修や、養護教諭による食物アレルギー対応に関する校内研修、感染症予防に関する研修や癌教育をテーマにした研修をとおして、生徒・教員の意識向上を図るとともに、保健だよりを発行して生徒の感染予防意識を喚起することで、校内での感染拡大を防ぐなどの成果が見られた。

年度途中からは、産婦人科の学校医も配置され、生徒の健康増進を一層推進したい。

(6) 募集・広報活動

○ 本校の教育活動に対する都民の理解を一層深める

コロナ禍の影響があるもので、夏季休業日中の学校見学会。学校説明会は可能な限りの感染対策の上実施した。受検を希望する中学生・保護者の期待には答えることができた。また、本校の特色を生かしたホームページとすべく、他校とは一線を画したつくりとしている。行事や特色ある教育活動を行ったあとの更新回数を増加させ、生徒・保護者はもとより、広く都民に本校の教育活動を周知した。

学校案内は前年度から取り組み始め、5月連休明けには完成し、ポスターと合わせ中学校や学習塾等に配布した。今後も早期完成を目指して、より早く情報発信ができるよう、広報活動全般に取り組むことが課題。

(7) 学校経営・組織体制

① 学校や生徒に関わる課題に迅速、かつ効果的に対応できる組織体制を構築する

企画調整会議を学校の戦略会議と位置づけて学校運営を行い、分掌、学年の各主任が職責を高いレベルで意識し、協力して課題改善を図る取り組みを実践することができた。学年主任会議は非公式に実施し、各学年の課題改善に向け取り組んだ。学校経営計画の指針・方針を職員に周知し、あわせてランドデザインの構築に向け学年並びに分掌会議が早期に情報を共有化するとともに、経営企画室とも緊密な連携を図ることで、課題解決を学校全体で取り組んだ。

課題は、令和4年度の教育課程に大きな懸念が予想されることについて、次年度教育課程を編成しなおすことである。

② 国際理解教育の推進

今年度も「海外学校間交流推進校」のもと、英語部を主導として、オンライン国際交流、アメリカンスクール高校生との文通を継続した。次年度に向け、コロナの状況によってはさらにオンライン国際交流の活動を拡大し、英語圏のみならず、できるだけ多くの学校と交流していく必要がある。さらに、対面による交流を模索することが課題である。今後さらに国際理解教育を推進・発展させていきたい。

③ 教職員の意識改革と資質・能力の向上を図る

主に進学指導上の工夫と国公立、難関私立大の合格率アップを目指し、教職員の一層の連携を図った。教育相談、情報セキュリティ（個人情報管理）やサービス等に関する校内研修を年間3回実施し、教員の意識改革に努め、情報流出やサービス事故を防止したが、残念な結果もあった。授業力向上については、年次研修該当者や教師道場参加者による研究授業、指導教諭による公開授業、年間2回の授業観察後の授業力向上面接、年3回以上の相互授業見学などを継続的に実施し、授業方法の改善や教材開発についての検討を進めた。また、ICTを用いた研究授業や研修を実施したことで、今年度も画像・映像などを活用して生徒の興味・関心を喚起する授業が確実に増加している。自律経営推進予算については、適切な補正予算を編成・執行した。センター契約の割合の目標値は達成したが、引き続き増加の取組みを行い、効率的な予算執行を進めていく。

(8) その他

① オリンピック・パラリンピック教育のレガシー

「子供を笑顔にするプロジェクト」の一環として、アテネオリンピック男子柔道100Kg級金メダリストの井上康生氏を講師に迎え、オリンピックのことから、目標、挑戦という話を伺った。また、文化祭においては、体育委員を主体として、オリンピックレガシー企画を実施した。

③ 校内美化活動

校内の清掃活動やゴミの分別指導など、総務部を中心に美化委員会の活動を活性化するとともに、日ごろの教育活動を通して生徒の環境問題への関心・意識を高めることに努めた。

2 重点目標と方策および数値：〔 〕内は目標値

		今年度結果	目標値
	授業規律の遵守を徹底するとともに生徒の興味・関心を喚起し、意欲的・主体的に学習活動に取り組めるよう授業内容、指導方法、評価の在り方を工夫・改善する		
(1)	チャイムによる授業開始と終了、挨拶の励行など授業規律の徹底	100%	〔100%〕
	生徒による授業評価、学校評価における授業に対する満足度	88%	〔90%以上〕
	夏期の補習・講習の開講講座数（前・後期1週間ずつ）・ 夏期の補習・講習の参加生徒数	60講座・ 延べ2,392名	〔60講座・延べ 3,200名以上〕
	自主学习時間1時間未満の生徒の割合	14%	〔5%以下〕
	自己の適性を見出させて確かな進路を選択させ、現役での希望進路の実現を支援する		
(2)	現役生で卒業時の進路未決定者（「進学準備」以外）率	0.4%	〔3%以下〕
	現役での4年制大学・短大進学率	81.8%	〔80%以上〕
	現役でのGMARCH合格者数	109名	〔120名以上〕
	国公立大学合格者数	14名	〔10名以上〕
	早慶上理合格者数	14名	〔20名以上〕
	難関国公立、医学部合格者数	0名	〔1名以上〕
	共通テスト結果（全国平均突破科目数）	10科目	全科目突破
	全教職員が一体となった組織的な取組により、基本的生活習慣の定着と規範意識の徹底を図る。		
(3)	特別指導件数	2	〔3件以下〕
	極端な染髪生徒の割合	0%	〔1%以下〕
	生徒に関する近隣からの苦情電話件数	12	〔3件以下〕
	部活動の一層の充実と委員会活動の活性化を図る		
(4)	部活動加入率	94.5%	〔95%以上〕
	都大会入賞、ベスト16以上の部数	4部	〔5部以上〕
	健康づくり、環境衛生に関する講演会を開催し、生徒の保健、環境に対する意識向上を図る		
(5)	保健および美化に関わる講演会の開催	3回	〔4回〕
	生徒会、美化委員会による「グッドマナー石神井」の取り組み	通年実施	通年実施
	学校PR活動の一層の充実を図り、本校により適する生徒の入学を目指す。		
(6)	学校見学会・説明会の参加人数（保護者と中学生）	3,470名	〔5,500人以上〕
	入学者選抜（一次）の倍率	1.9倍	〔2倍以上〕
	研究授業や校内研修を実施し、あわせて相互の授業見学を推進することにより教員の授業力向上を図る。		
(7)	全都に公開する研究授業・研究協議の実施回数	15回	〔20回以上〕
	3回以上授業見学した教員の割合	70%	〔100%〕
	授業における図書館の活用などを通して読書活動を推進する		
(8)	生徒への図書貸出数の増大	2,705冊	〔4,000冊以上〕
	教職員の働き方を改革する。		
(9)	年間、勤務時間外労働360時間を超える教職員	12名	5人以下

3. 令和5度に向けた成果と課題

「チーム石神井で文武二道の両立を」をスローガンに、様々な教育活動に取り組み、生徒・保護者はもちろんのこと地域や中学生にも、石神井高校の教育活動が十分に浸透してきている。入学者選抜の倍率も高倍率を維持しており、入学者の成績も向上している。それに伴い、進学実績も年々向上し、生徒の意識も大きく変化してきている。本年度もコロナ禍による様々な制限のもと、教職員の組織的な対応や生徒会や部活動を中心とした生徒の自主的な活動、更には関係各機関の協力を仰ぎながら、体育祭や文化祭といった学校行事を開催できたことは、生徒の自己肯定感や自己有用感を高め、他者と協働し主体的に学ぶ力を大きく向上させた。さらに、今年度から導入された一人1台端末を活用し、ICT機器やオンライン授業、Teamsを活用した教育活動を推進することで、生徒一人一人に応じた個別最適な学びを充実させた。

入学者の学力が向上し、本校に対する都民や受検生の期待は年々大きくなっており、その期待に応えることは本校の使命である。学習活動の充実はもちろん、本校最大の特徴である部活動や特別活動の充実も一層図る必要がある。新学習指導要領の理念を具現化すべく、未知の課題に対して教職員の総力を結集して、解決策を模索しながら教育活動を展開し、高度に文武二道を実践していく。